

## 長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	12 -	事業名	大学連携事業	担当部課	くらし文化部たつせがある課
------	------	-----	--------	------	---------------

基本情報	総合計画	基本方針	5	みんなの力を結集する自治と協働のまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	3	大学をまちづくりに生かす	款	2	総務費
		施策の進め方	-		項	1	総務管理費
	まちづくり行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	9	まちづくり協働費
		政策分類	1	住民の力を生かした新しい役割分担の仕組みをつくる	大事業	7	大学連携事業
	その他(関係法令、要綱等)	大学連携推進協議会設置要綱					
事業開始の背景、経緯等	市内4大学と包括的な連携に関する協定書をそれぞれ締結し、個々の大学との連携については実績を積み重ねているが、第5次総合計画の基本施策「大学をまちづくりに生かす」を具体的に進めていくため、市と市内大学による長久手市大学連携推進協議会を設置した。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学・地域・市が協働するまちづくりを推進するため次の事業を行う。 ①大学連携推進協議会、大学連携連絡調整会議等の開催及び協議会主催の連携事業の実施 ②大学から提案のあったまちづくり事業への助成(大学連携提案助成金事業) ③大学連携基本計画の策定						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内4大学、近隣大学、市民、企業及び行政						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 大学と行政の連携事業の推進体制を確立するとともに、市民が大学、行政と連携した事業に様々な形で身近に参加できるようにする。						
	事業を構成する事務事業	① 大学連携事務事業	拡充	④				
	② 大学連携提案助成金事業	拡充	⑤					
	③ 大学連携基本計画策定事業	拡充	⑥					

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	予算 決算	<del>438</del>	<del>438</del>	1,295 438	5,482 1,044	3,932
人件費(B)	千円	決算	<del>7,638</del>	<del>7,638</del>	7,638	6,111		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	<del>8,076</del>	<del>8,076</del>	8,076	7,155		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 大学連携事業実施件数	件	目標	40	42	30	40	40
			実績	41	21	39	38	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 大学と連携した事業をより多く企画、実施できるようにするため、本市における大学連携事業実施件数を成果とする。 B C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 大学との包括連携協定を実施している近隣の実施市町：瀬戸市(大学コンソーシアム)、尾張旭市、日進市、豊明市、東郷町、みよし市、豊田市
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 事業実施件数の目標は達成していないが、大学と連携して事業を実施することについては市職員始め市民、企業等へ浸透しつつあり、大学連携への意識が高まっており目的は達成されている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 大学と市との連携を更に強化し、新たな連携事業を検討していく。また、今後、市外大学との包括連携協定や相互連携の方向性を考える必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 大学連携基本計画策定事業を進め、大学と連携した事業をより多く企画、実施できるようにする。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成29年度中に大学連携基本計画を策定する。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		大学連携事業									
番号	①	事務事業名	大学連携事務事業	款	2	項	1	目	9	大	7	中	1
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成24年度		終了（予定）年度		—					

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学連携推進協議会、大学連携連絡調整会議等の開催、学生向けの市長秘書インターンシップ等を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	市と大学との連携を密にし、まちづくりに活用する。市長秘書インターンシップに参加してもらうことで、学生に市政について意識してもらう。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			653	690	240
		決算			338	324	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
協議会及び連絡調整会議実施	人	目標	2	6	6	6	6
		実績	2	5	4	4	
市長秘書インターンシップ応募者数	点	目標	6	7	7	8	6
		実績	6	7	7	3	

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

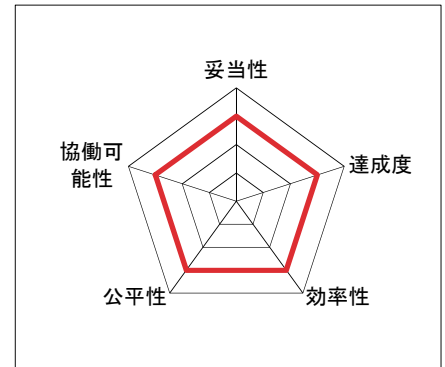
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市外の大学から包括連携協定の打診があり、今後協定の範囲を広げ、協議会の在り方を検討する必要がある。

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
大学との情報共有をより確実なものにするため、大学連携推進協議会、連絡調整会議を引き続き行い、連携して実施できる事業の検討などを進める。市長秘書インターンシップについては政策秘書課と連携して今後も継続していく。
(何をどのような状態に改善したのか)
大学連携基本計画の策定のための協力を大学に依頼し、協議会を通じて教員の推薦、事前調査の実施を行った。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
市長秘書インターンシップは、秘書の実習ができる機会がなく好評であり、今後も実施の希望がある。

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
市が主体で協議会が実施されており、大学からの提案事項はほとんどない。

## 7. 今後の方向性

**拡充**

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
大学と連携して実施できる新たな事業を模索していく。今年度は大学連携基本計画策定の年であるため、大学における内容確認、承認を協議会を通じて実施してもらい、基本計画を策定する。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		大学連携事業									
番号	②	事務事業名	大学連携提案助成金事業	款	2	項	1	目	9	大	7	中	2
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成27年度		終了（予定）年度		—					

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学・地域・行政が協働するまちづくりを推進するため、大学から提案された地域の課題の解決及び地域の魅力の向上を目的としたまちづくり事業について助成を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	まちづくりに関わる事業を助成することで、大学と行政の協働・連携に結びつける。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			200	200	200
		決算			100	159	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
提案助成金事業申請件数	件	目標	—	—	2	3	6
		実績	—	—	1	4	
		目標					
		実績					

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

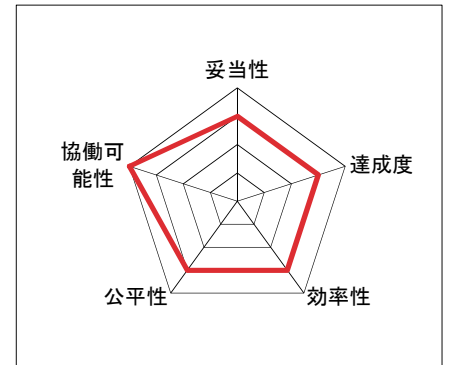
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
審査方法を、申請書類のみの審査からプレゼンテーションの実施を追加したことにより、より提案者の能力向上に資することができるようになった。

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
27年度から始まった事業であるため、申請件数が少なかった。事業の進め方や周知方法など内容について検討、変更をしながら、今後も継続していく。
(何をどのような状態に改善したのか)
市から提示した課題に対する提案ではなく、自由に提案をしてもらうことにより、申請件数を増やすことができた。また、審査にプレゼンテーションを追加したことにより、提案者の能力向上に資することができた。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
事業の進め方を変えたことで、申請件数が増えた。

### 【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
成果品の報告発表機会がないため、方法を考える必要がある。

## 7. 今後の方向性

拡充
----

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
成果品の報告発表方法を検討し、より提案者の能力の向上を目指す。学生の更なる成長を目指し、学生による申請数の増加やプレゼンテーションの参加を促すような要綱の改正を進める。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		大学連携事業										
番号	③	事務事業名	大学連携基本計画策定事業		款	2	項	1	目	9	大	7	中	3
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成27年度		終了（予定）年度		—						

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学・地域・行政が協働するまちづくりを推進するため、今後の方針を定める基本計画を策定する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	計画的に大学連携事業が進められるようにする。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			442	4,592	3,492
		決算			0	561	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
策定委員会開催	回	目標	—	—	—	5	10
		実績	—	—	—	0	
		目標					
		実績					

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

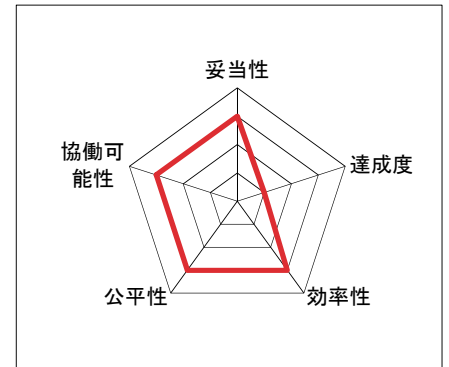
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成28年度策定予定であったが、策定を依頼する各大学の教員と計画に盛り込む内容や大学連携のイメージを事前に調査し情報共有するために時間を要したため、29年度に策定することになった。

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
27年度は「リリモテラス公益施設基本計画」の中に盛り込んで策定する予定であったが、単独計画として28年度に策定する。計画策定の当初から大学教員等に関わってもらいたいため、27年度は大学連携推進協議会を通じて携わっていただく教員等の募集・推薦をお願いした。28年度はその応募者と面談し、学生とのワークショップ等を実施し、計画策定を進めていく。
(何をどのような状態に改善したのか)
計画通りには進んでいないが、市内4大学教員との計画及び大学連携のイメージについての情報提供、共有を図ることができた。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	1
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
実効的な計画とするため、業者委託ではなく市内4大学の教員に計画策定を委託する。

### 【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
大学（教員）との情報共有に時間を要し、今年度中の策定が完了しなかった。

## 7. 今後の方向性

**拡充**

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
平成28年度の事前調査結果を基に、今年度は市内4大学の教員を核にした、今後の大学連携を充実させる基本方針となるような計画を策定する。